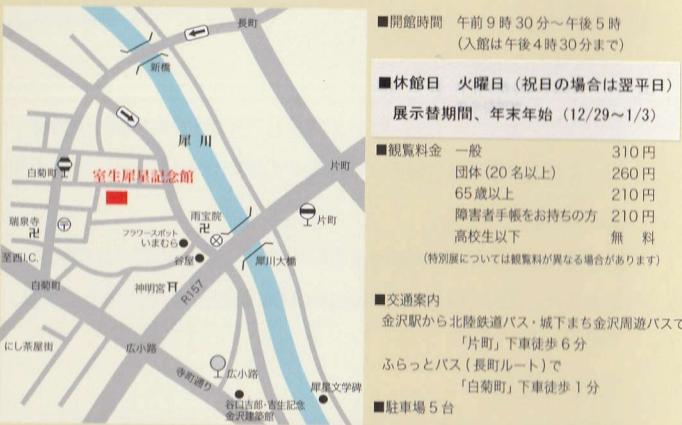


室生犀星記念館

室生犀星略年譜

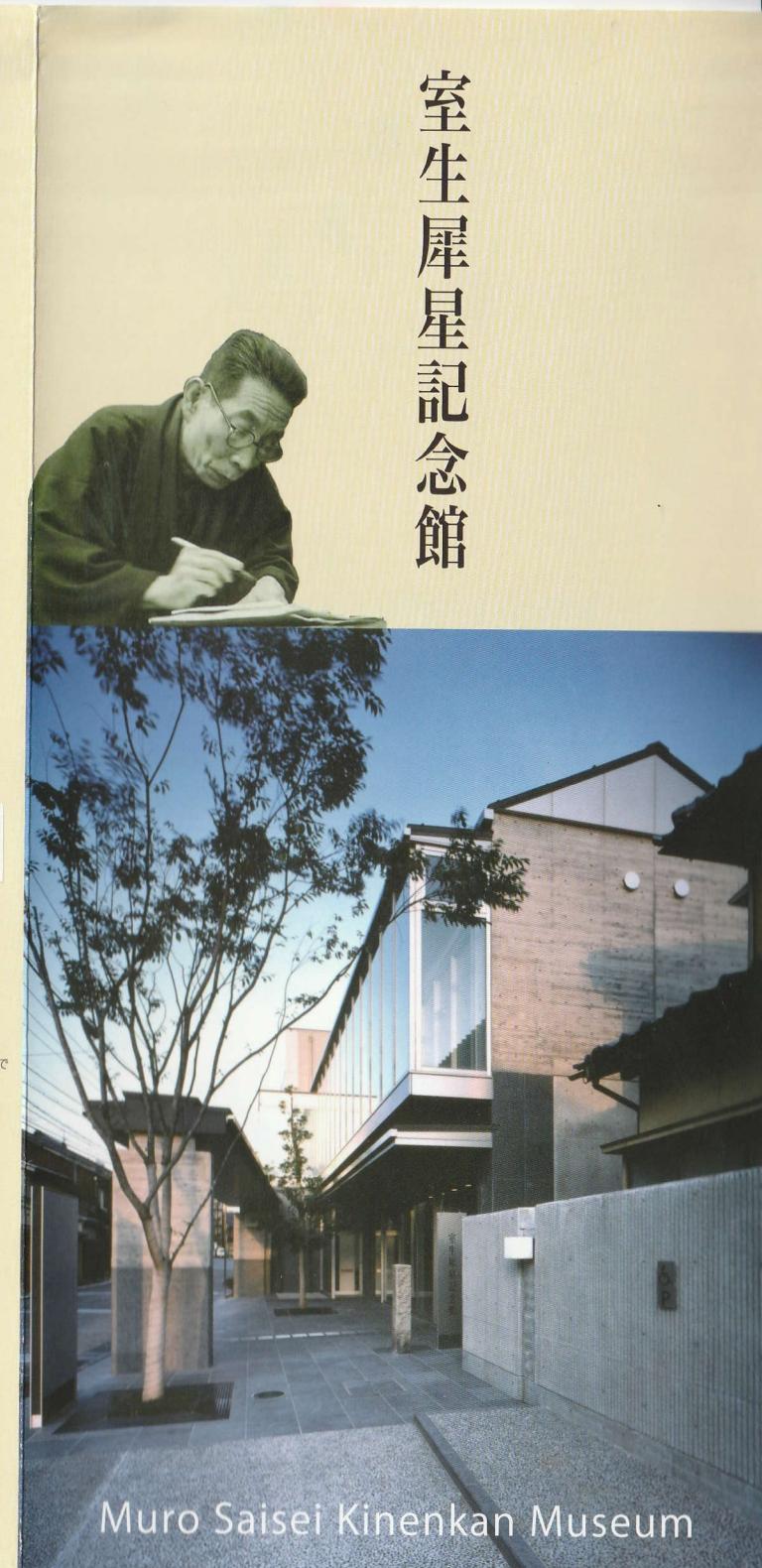
明治22年(1889年)	当歳	8月1日、小畠弥左衛門吉種の子として生まれる。生後ほどなく雨宝院住職・室生真乗と内縁関係にあった赤井ハツにもらわれ、照道と命名される。
明治28年(1895年)	6歳	9月、金沢市立野町尋常小学校に入学(四年制)。室生真乗の養嗣子となり、室生姓を名乗る。
明治29年(1896年)	7歳	4月、金沢市立長町高等小学校入学(四年制)。
明治33年(1900年)	11歳	5月、長町高等小学校を中退し、金沢地方裁判所に就職。
明治35年(1902年)	13歳	
明治39年(1906年)	17歳	「政教新聞」掲載の詩で、初めて「犀星」の名を使う。
明治40年(1907年)	18歳	北辰詩社を尾山篤二郎らと結成。
明治43年(1910年)	21歳	上京。金沢地方裁判所の上司であった赤倉勇次郎(錦風)を頼つて寄宿する。
大正2年(1913年)	24歳	「朱鸞」に詩が連続掲載され、晚春、同誌を見た萩原朔太郎より手紙をもらう。以来親交を結ぶ。萩原朔太郎、山村暮鳥と3人で人魚詩社創立。
大正3年(1914年)	25歳	人魚詩社より「阜上噴水」を創刊するが、3集で廃刊。
大正4年(1915年)	26歳	
大正5年(1916年)	27歳	感情詩社を結成し、「感情」を創刊する。
大正6年(1917年)	28歳	9月、養父、真乗死去。
大正7年(1918年)	29歳	1月、「愛の詩集」を自費出版。
大正8年(1919年)	30歳	2月、浅川とみ子と結婚。
大正10年(1921年)	32歳	9月、「中央公論」に初めての小説「幼年時代」が掲載され、同誌編集長、滝田権蔵に執筆を依頼される。その後、10月に「性に眼覚める頃」、11月「或る少女の死まで」を「中央公論」に掲載。
大正12年(1923年)	34歳	5月、長男・豹太郎誕生、翌年夭折。
大正15年(1926年)	37歳	8月、長女・朝子誕生。9月、関東大震災に遭い、10月、家族とともに帰郷する。
昭和2年(1927年)	38歳	5月、金沢の天徳院寺領を借り、作庭を始める。昭和7年まで。9月、次男・朝巳誕生。
昭和3年(1928年)	39歳	7月、親交を結んでいた芥川龍之介が自殺。その死に大きな衝撃を受ける。
昭和6年(1931年)	42歳	4月、義母ハツ死去。
昭和7年(1932年)	43歳	7月、軽井沢1133に別荘を新築。
昭和10年(1935年)	46歳	4月、大森区馬込町東3の763番地(現東京都大田区南馬込)に新築転居、終の住家となる。前年に連載した「あにいもうと」で第1回文芸懇話会賞受賞。翌年、映画化される。
昭和17年(1942年)	53歳	5月に萩原朔太郎、佐藤惣之助死去。
昭和19年(1944年)	55歳	8月、軽井沢に疎開する。昭和24年9月まで。
昭和23年(1948年)	59歳	8月、日本芸術院会員となる。
昭和27年(1952年)	63歳	母校・金沢市立野町小学校の創立80周年記念に校歌を作詞。
昭和30年(1955年)	66歳	1月、「隨筆ひと」を「新潮」に連載開始。
昭和31年(1956年)	67歳	11月、「杏つ子」を「東京新聞」に連載開始。
昭和34年(1959年)	70歳	翌年、同作品が第9回読売文学賞を受賞し、東宝で映画化される。
昭和35年(1960年)	71歳	10月、妻とみ子死去。
昭和36年(1961年)	72歳	「我が愛する詩人の伝記」で第13回毎日出版文化賞受賞、「かげろふの日記遺文」で第12回野間文芸賞受賞。
昭和37年(1962年)		「室生犀星詩人賞」設定。第1回、滝口雅子が受賞。7月、軽井沢矢ヶ崎川畔に自ら詩碑を建てる。
昭和39年(1964年)		10月、虎の門病院に入院。
平成14年(2002年)		12月、第2回「室生犀星詩人賞」辻井喬、富岡多恵子が受賞。
		3月26日、肺癌のため死去。
		翌年、金沢市野田山墓地に埋葬される。
		5月、金沢市中川除町に文学碑建立。
		8月1日、室生犀星記念館開館。



犀星の愛猫ジイノ
Paw print

室生犀星記念館

〒921-8023 石川県金沢市千日町3-22
TEL.076-245-1108 FAX.076-245-1205
E-mail:saisei@kanazawa-museum.jp
<https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/>



Muro Saisei Kinenkan Museum